

奉天軍備

細面方面、在り、昭和八年十月、防軍兵力ヲ増強スルト共ニ

北綏方面、陸軍作戦、兵力トシテ十月、内地ニ移駐スル五十三師

奉天動員(南部)ニシテ他五混成旅第二十回旅團、昭和十九年

又第七師旅補充隊ニシテ細面、多クニ増強

一月、日南西ニシテ組織ヲ確立スル及、第三十一年

シテ南軍員官々々々々全般作戦特ニ北綏及イロニテ南ノ作戦指導ニ係ル

司令特設シ細面方面、軍人各官ノ轉下ニシテ

シテ南ノ作戦ニ係ル南軍員官、在任ニシテ

十
十

年

十一、十三

五月二十七日 朝鮮、在 第四九 師團ヲ 助カシテ之ヲ 派遣ス

第十五軍司令官印クシテ之ヲ 佐藤 指揮スルモノトスル

北 細 方面ノ 統帥ニ 奉命スル 第三十三軍司令官印ク

入 第三十三軍ハ

物 波 津 細 向 方面ニ 駐シ 第十八師團 第五十六師團

及 軍 直 部 隊

ヲ 統 率 ス 次 子

(前章 北國田 報)

東に東の一角をこころの角

十一、十五
集

控領地之者ヲ特設ス 斯レハ間放ノサレシマ行ス

又ハオノ旧地梅領ニ於テ亦同梅軍大ニ

同地ニ在リ

及改メリ 幾何ノ先務ハ一日ノ邊延ヲ許ス 第四十七師團

古目未

一部 (第五十八師團ト称ス) ヲ次テ 七月十日 (第六十師團)

他ニ改メ

ヲバニ一梅嶽島嶼 十日内地ヲ移シ 梅園院 連野記

白地 旭岳 大塚 等ヲ系據 假令ノ上ニシテ 比前ニ批准ス

附 第八 第二十五師團 我軍在師團ヲ 檜州ヨリ 抽出 同方面

（第七師團ニ在リ）

ニ批准スノ快定アリ 比前地ニシテ 総帥 組織ス

(納望光國田照)

十一ノ十

軍

改之 従来、第十四軍ヲ第十四方面トシ、特ニ中南印

比島陸軍ノ第三支隊ヲ比島ニ特設ス

比島方面情勢從前南洋圖ト本土圖トニ分断シテ管理セリ

斯レ情勢ヲ整テ南方軍ノ兵備的相違ヲ考慮シ、五月頃

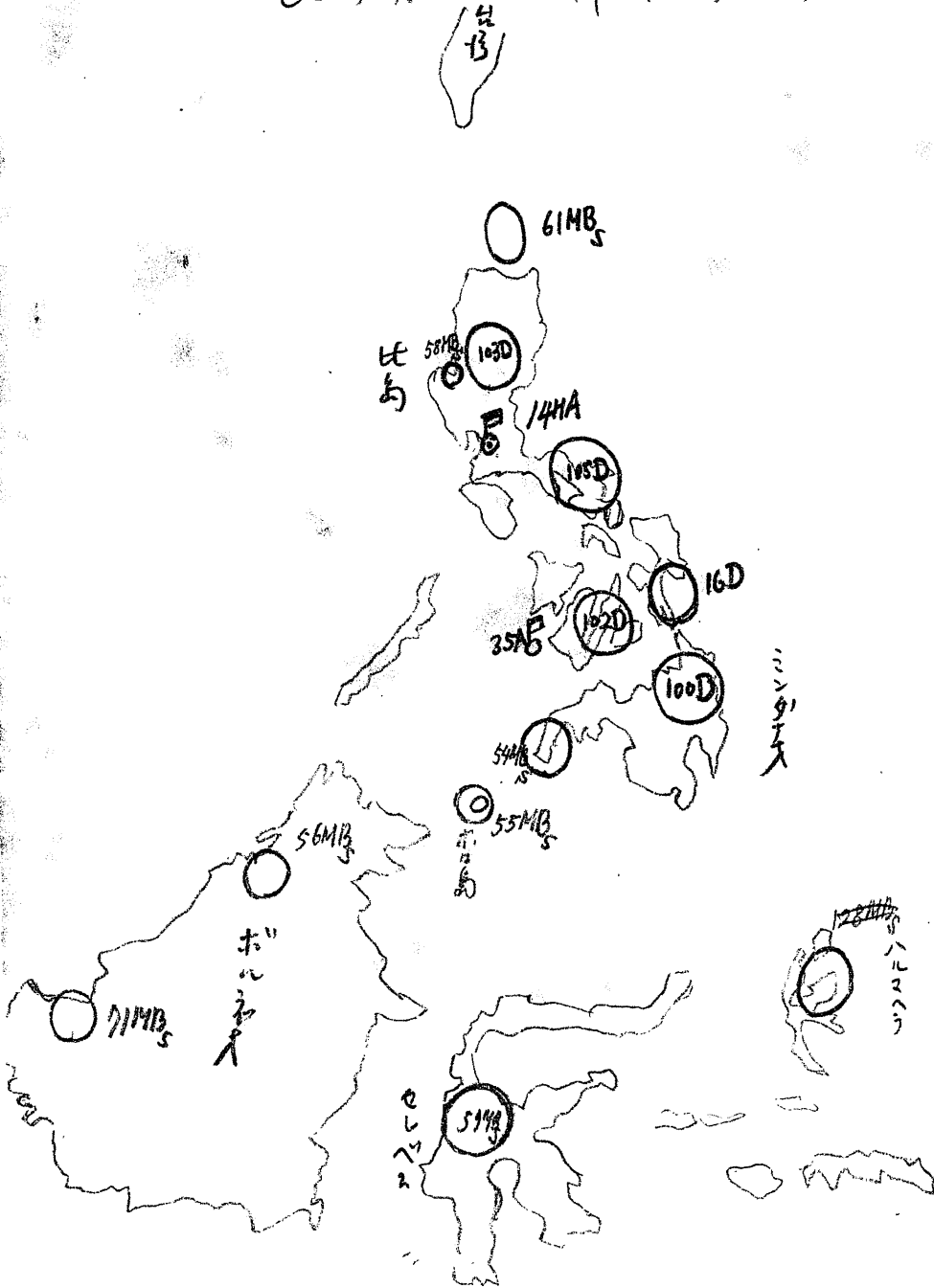
ヨリ南方軍ヲ補充スルテ約七万人ト整部シ合シ、
兼、

急運輸送ヲ實施ス

七月末頃ニ於テハ比島方面兵備ノ概況左ノ如シ

(新田光國)

比納方面 兵部 松島系②



2
1

十一
十
七

203

0878

7/18
19

中部太平洋方面ノ兵備概況

昭和十八年夏迄於テノ兵備現況

南東方面於テノ戰況ノ惡化ニ伴ヒテ中部太平洋ノ要衝

マレーヤニ於テトモ東攻ノ算大ナリ四月南海第一守備隊

ヲ三シ一團ニ同第三守備隊

大島兩、同第四守備隊

昭和十八年末ヨリ昭和十九年末ニ至ル兵備概況

是レ上ニ申セ太平洋方面ノ日ニ惡化スル終極ニ至ル中部太平洋

陸軍

二十五年

急遽應援、必要が生じ九月南洋第一支隊（南海第一守備

隊）及前島第一二三野隊ヲ其轄トシ（人数約三千五百）ヲミル也

（藩州に駐留中成也）

及「マニラ」ノ島等ニ十月南洋第二支隊（其の編成守備隊

員中）編成守備隊員九百二十名大隊等ヲ其轄トシ人数

（同前編成中成也）

約（少）千名南洋第三守備隊ヲ其轄トシ（人数三

内地に駐留中成也）

同第四守備隊（人数約）ヲミル也（昭和十九年一月

南洋第一守備隊ヲ其轄トシ（人数約）概滿第三編成守備隊員中

原典：開港ノイロ

派遣隊名	縮小部隊	派遣先
第一派遣隊	第五歩兵團司令部 歩兵第四十聯隊 第三大隊 歩兵第十聯隊 第三大隊 歩兵第十四聯隊 第三大隊 歩兵第十九聯隊 第三大隊 砲兵少佐 砲兵第三聯隊 (砲兵第一大隊) 工兵第二十五聯隊 第三中隊	サイパン
第二派遣隊	歩兵第七聯隊 第三大隊 歩兵第十九聯隊 第三大隊 山砲兵第九聯隊 第一大隊 工兵第八聯隊 第三中隊	トラウク
第三派遣隊	第八歩兵團司令部 砲兵第五聯隊 第一大隊 砲兵第十七聯隊 第一大隊 砲兵第三十一聯隊 第三大隊 野砲兵第八聯隊 第三大隊 工兵第八聯隊 第三中隊	モントシ

原簿・開本ノート

<p>第七飛道隊</p>	<p>歩兵第二十二聯隊第一大隊 歩兵第二十三聯隊第一大隊 即給隊第四工兵隊第三大隊 工兵第二十四聯隊第三大隊</p>	<p>マシオン島</p>
<p>第六飛道隊</p>	<p>第二特設警備隊司令部 歩兵第七十三聯隊第一大隊 歩兵第七十五聯隊第一大隊 歩兵第七十七聯隊第一大隊 砲兵隊第三五聯隊第一大隊 工兵第十九聯隊第三大隊</p>	<p>トミン島</p>
<p>第九飛道隊</p>	<p>第二十四前衛隊司令部 砲兵守備隊第六第十大隊 砲兵守備隊第七第十四大隊 砲兵守備隊第八第十八大隊</p>	<p>ヤワラ島</p>

東京・海軍省

陸軍
第五十一

昭和十九年二月

以上如中 兵力派遣之件と之方 總率之任云（平第三十軍司令印

（甲）

（甲）

ヲ物設シ次予内地ニ在ル第四十三ヲ動員シテサテハシニ派遣ス

尚三間 能立根成第三新隊ヲ動員シ南島島派遣ス

斯ノ如ク中初太平洋作方面ノ我南ノ情勢ノ進展ニ伴ヒ

（續）

（續）

逐次之ヲ強シタル部隊混交シ總率上適當ナラ

昭和十九年五月三十日

廿九ノ日迄予 陸軍ノ派遣部隊ヲ彼此結合シテ

此ニ従成

第五十、五十一、五十二各部隊ヲ編成ス其ノ概西あたノ

東京・開港ノ一ト録

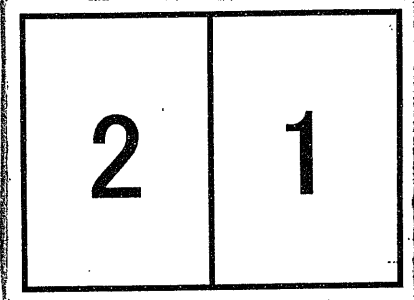
三ノ

如ク之カ改泊
神子本晴
サハシ
島
村
之
敵
友
改
リ
見
ル
ニ

211

0886

分割撮影ターゲット

分割した部分の撮影順序	
分割撮影した理由	A 3版以上のため
文書等名	第31軍編成充当部隊一覧表 (現地改編玉研部隊を除く)
上記のとおり分割撮影したことを証明する。	

附錄附表第一

十一

第三十一軍編成充當部隊一覽表(現地及編玉辭部隊ヲ除ク)

部隊名	編	充當部隊	編成
第五十二師團司令部 〔相第四六五〕	525	司令部	編成完備
步兵第六十九聯隊 〔相第四六五〕	同	上	クシラト
步兵第五十聯隊 〔相第四六五〕	同	上	クシラト
第五十一師團鐵車隊 〔相第四六七〕	2PK	東部軍補	クシラト
第五三師團通信隊 〔相第四六七〕	TL/520	東部軍補	クシラト
第五十二師團海上輸送隊 〔相第四六七〕	527	東部軍補	クシラト
第五二師團勤務隊 〔相第四六七〕	5/PS	東部軍補	クシラト
第五二師團野戰醫院 〔相第四六七〕	520 司令部	東部軍補	クシラト
本隊第一大隊	1AZ	東部軍補	クシラト
本隊第二大隊	2AZ	東部軍補	クシラト
本隊第三大隊	4AZ	東部軍補	クシラト
本隊第四大隊	520	東部軍補	クシラト
本隊第五大隊	520	東部軍補	クシラト
本隊第六大隊	520	東部軍補	クシラト
本隊第七大隊	520	東部軍補	クシラト
本隊第八大隊	520	東部軍補	クシラト
本隊第九大隊	520	東部軍補	クシラト
本隊第十大隊	520	東部軍補	クシラト
本隊第十一大隊	520	東部軍補	クシラト
本隊第十二大隊	520	東部軍補	クシラト
本隊第十三大隊	520	東部軍補	クシラト
本隊第十四大隊	520	東部軍補	クシラト
本隊第十五大隊	520	東部軍補	クシラト
本隊第十六大隊	520	東部軍補	クシラト
本隊第十七大隊	520	東部軍補	クシラト
本隊第十八大隊	520	東部軍補	クシラト
本隊第十九大隊	520	東部軍補	クシラト
本隊第二十大隊	520	東部軍補	クシラト
本隊第二十一大隊	520	東部軍補	クシラト
本隊第二十二大隊	520	東部軍補	クシラト
本隊第二十三大隊	520	東部軍補	クシラト
本隊第二十四大隊	520	東部軍補	クシラト
本隊第二十五大隊	520	東部軍補	クシラト
本隊第二十六大隊	520	東部軍補	クシラト
本隊第二十七大隊	520	東部軍補	クシラト
本隊第二十八大隊	520	東部軍補	クシラト
本隊第二十九大隊	520	東部軍補	クシラト
本隊第三十大隊	520	東部軍補	クシラト
本隊第三十一大隊	520	東部軍補	クシラト
本隊第三十二大隊	520	東部軍補	クシラト
本隊第三十三大隊	520	東部軍補	クシラト
本隊第三十四大隊	520	東部軍補	クシラト
本隊第三十五大隊	520	東部軍補	クシラト
本隊第三十六大隊	520	東部軍補	クシラト
本隊第三十七大隊	520	東部軍補	クシラト
本隊第三十八大隊	520	東部軍補	クシラト
本隊第三十九大隊	520	東部軍補	クシラト
本隊第四十大隊	520	東部軍補	クシラト
本隊第四十一大隊	520	東部軍補	クシラト
本隊第四十二大隊	520	東部軍補	クシラト
本隊第四十三大隊	520	東部軍補	クシラト
本隊第四十四大隊	520	東部軍補	クシラト
本隊第四十五大隊	520	東部軍補	クシラト
本隊第四十六大隊	520	東部軍補	クシラト
本隊第四十七大隊	520	東部軍補	クシラト
本隊第四十八大隊	520	東部軍補	クシラト
本隊第四十九大隊	520	東部軍補	クシラト
本隊第五十大隊	520	東部軍補	クシラト
本隊第五十一大隊	520	東部軍補	クシラト
本隊第五十二大隊	520	東部軍補	クシラト
本隊第五十三大隊	520	東部軍補	クシラト
本隊第五十四大隊	520	東部軍補	クシラト
本隊第五十五大隊	520	東部軍補	クシラト
本隊第五十六大隊	520	東部軍補	クシラト
本隊第五十七大隊	520	東部軍補	クシラト
本隊第五十八大隊	520	東部軍補	クシラト
本隊第五十九大隊	520	東部軍補	クシラト
本隊第六十大隊	520	東部軍補	クシラト
本隊第六十一大隊	520	東部軍補	クシラト
本隊第六十二大隊	520	東部軍補	クシラト
本隊第六十三大隊	520	東部軍補	クシラト
本隊第六十四大隊	520	東部軍補	クシラト
本隊第六十五大隊	520	東部軍補	クシラト
本隊第六十六大隊	520	東部軍補	クシラト
本隊第六十七大隊	520	東部軍補	クシラト
本隊第六十八大隊	520	東部軍補	クシラト
本隊第六十九大隊	520	東部軍補	クシラト
本隊第七十大隊	520	東部軍補	クシラト
本隊第七十一大隊	520	東部軍補	クシラト
本隊第七十二大隊	520	東部軍補	クシラト
本隊第七十三大隊	520	東部軍補	クシラト
本隊第七十四大隊	520	東部軍補	クシラト
本隊第七十五大隊	520	東部軍補	クシラト
本隊第七十六大隊	520	東部軍補	クシラト
本隊第七十七大隊	520	東部軍補	クシラト
本隊第七十八大隊	520	東部軍補	クシラト
本隊第七十九大隊	520	東部軍補	クシラト
本隊第八十大隊	520	東部軍補	クシラト
本隊第八十一大隊	520	東部軍補	クシラト
本隊第八十二大隊	520	東部軍補	クシラト
本隊第八十三大隊	520	東部軍補	クシラト
本隊第八十四大隊	520	東部軍補	クシラト
本隊第八十五大隊	520	東部軍補	クシラト
本隊第八十六大隊	520	東部軍補	クシラト
本隊第八十七大隊	520	東部軍補	クシラト
本隊第八十八大隊	520	東部軍補	クシラト
本隊第八十九大隊	520	東部軍補	クシラト
本隊第九十大隊	520	東部軍補	クシラト
本隊第九十一大隊	520	東部軍補	クシラト
本隊第九十二大隊	520	東部軍補	クシラト
本隊第九十三大隊	520	東部軍補	クシラト
本隊第九十四大隊	520	東部軍補	クシラト
本隊第九十五大隊	520	東部軍補	クシラト
本隊第九十六大隊	520	東部軍補	クシラト
本隊第九十七大隊	520	東部軍補	クシラト
本隊第九十八大隊	520	東部軍補	クシラト
本隊第九十九大隊	520	東部軍補	クシラト
本隊第一百大隊	520	東部軍補	クシラト

0887
0888

附録附表第...
十一ノ二十三

第三十一軍編成充當部隊一覽表 (現地改編部隊部)

部隊名	編	充當	部隊	編成	現地
南洋第一旅支隊	第一	步兵第百十二聯隊及南海第一中隊	旅支隊	レ	島
南洋第二旅支隊	第二	步兵第百十二聯隊及南海第一中隊	旅支隊	レ	島
南洋第三旅支隊	第三	步兵第百十二聯隊及南海第一中隊	旅支隊	レ	島
南洋第四旅支隊	第四	步兵第百十二聯隊及南海第一中隊	旅支隊	レ	島
南洋第五旅支隊	第五	步兵第百十二聯隊及南海第一中隊	旅支隊	レ	島
司令部	司令部	南洋第五支隊本部第六中隊	司令部	レ	島
獨立第三一大隊	獨立第三一大隊	南洋第五支隊第一大隊	獨立第三一大隊	レ	島
獨立第三二大隊	獨立第三二大隊	南洋第五支隊第二大隊	獨立第三二大隊	レ	島
獨立第三三大隊	獨立第三三大隊	步兵第二二聯隊第一大隊	獨立第三三大隊	レ	島
獨立第三四大隊	獨立第三四大隊	步兵第三二聯隊第三大隊	獨立第三四大隊	レ	島
獨立第三五大隊	獨立第三五大隊	獨立守備步兵第一四大隊主力	獨立第三五大隊	レ	島
戰車隊	戰車隊	第七旅遺隊各大隊各一中隊	戰車隊	レ	島
砲兵隊	砲兵隊	南洋第五支隊戰車一中隊	砲兵隊	レ	島
高射砲隊	高射砲隊	野砲兵第四三聯隊	高射砲隊	レ	島
工兵隊	工兵隊	野戰高射砲第五二大隊	工兵隊	レ	島
工兵第二四聯第三大隊	工兵第二四聯第三大隊	第三中隊	工兵第二四聯第三大隊	レ	島

昭和十九年六月七日

昭和十八年十二月十三日

駐屯地 島 主 部
マアエロマ アナツネウ

獨立混成第五旅團										獨立混成第十一旅團														
司令部 〓 一七五五	獨歩三三六大隊 〓 一七五五	〓 三三七六大隊	〓 三三八七大隊	〓 三三九八大隊	〓 三四〇九大隊	〓 三四一〇大隊	第一砲兵隊 〓 一七五五	第二砲兵隊 〓 一七五五	高射砲隊 〓 一七五五	工兵隊 〓 一七五五	通信隊 〓 一七五五	司令部 〓 一七五五	獨歩三三六大隊 〓 一七五五	〓 三三七六大隊	〓 三三八七大隊	〓 三三九八大隊	〓 三四〇九大隊	〓 三四一〇大隊	第一砲兵隊 〓 一七五五	第二砲兵隊 〓 一七五五	高射砲隊 〓 一七五五	工兵隊 〓 一七五五	通信隊 〓 一七五五	
第二獨立守備隊司令部	步兵第七三聯隊第三大隊	步兵第七五聯隊第三大隊	步兵第七六聯隊第三大隊	獨歩 336 337 338 340 341 混成部隊	步兵第七七聯隊第三大隊	步兵第七八聯隊第三大隊	獨歩 砲兵第三大隊	獨歩 砲兵第三大隊	獨歩 砲兵第三大隊	獨歩 砲兵第三大隊	獨歩 砲兵第三大隊	獨歩 砲兵第三大隊	獨歩 砲兵第三大隊	獨歩 砲兵第三大隊	獨歩 砲兵第三大隊	獨歩 砲兵第三大隊	獨歩 砲兵第三大隊	獨歩 砲兵第三大隊	獨歩 砲兵第三大隊	獨歩 砲兵第三大隊	獨歩 砲兵第三大隊	獨歩 砲兵第三大隊	獨歩 砲兵第三大隊	獨歩 砲兵第三大隊
島	島	島	島	島	島	島	島	島	島	島	島	島	島	島	島	島	島	島	島	島	島	島	島	島
昭和十九年六月十日	昭和十九年六月七日	昭和十九年六月十日	昭和十九年六月七日	昭和十九年六月十日	昭和十九年六月七日	昭和十九年六月十日	昭和十九年六月七日	昭和十九年六月十日	昭和十九年六月七日	昭和十九年六月十日	昭和十九年六月七日	昭和十九年六月十日	昭和十九年六月七日	昭和十九年六月十日	昭和十九年六月七日	昭和十九年六月十日	昭和十九年六月七日	昭和十九年六月十日	昭和十九年六月七日	昭和十九年六月十日	昭和十九年六月七日	昭和十九年六月十日	昭和十九年六月七日	昭和十九年六月十日
島	島	島	島	島	島	島	島	島	島	島	島	島	島	島	島	島	島	島	島	島	島	島	島	島

寸ノ二十

考 備 七月以降 「パラオ」地区集團及小笠原地区集團ノ隷下ニ入り	隊聯三十第成混五独 (隊部七八五七一第備)	隊聯一十第成混五独 (隊部五八五七一第備)	隊聯十第成混五独 (隊部四八五七一第備)	隊聯九第成混五独 (隊部三八五七一第備)
	砲兵中隊 戰車隊 第一大隊 第二大隊	通信隊 工兵隊 高射砲隊 砲兵隊 第三大隊 第二大隊 第一大隊	通信隊 工兵隊 砲兵隊 第三大隊 第二大隊 第一大隊	通信隊 工兵隊 高射砲隊 砲兵隊 第三大隊 第二大隊 第一大隊
	南海第三守備隊本部 戰車第十六聯隊 砲兵中隊 南海第三守備隊本部 同 舊第五混成第五聯隊第一大隊 戰車第十六聯隊	舊第三混成隊 野砲兵第八聯隊第一大隊 高射砲第二五聯隊第四中隊 工兵第八聯隊第二中隊 第八步兵團司令部 步兵第五聯隊第一大隊 步兵第七聯隊第一大隊 步兵第三聯隊第三大隊	步兵第一聯隊第三中隊 步兵第一聯隊第三大隊 步兵第二聯隊第三大隊 步兵第四三聯隊第三大隊 少砲兵第一一聯隊第三大隊 工兵第一聯隊第三中隊 第二四步兵團司令部 通信要員 第八步兵團司令部	舊第五混成隊 山砲兵七一第一大隊 獨立高射砲第四二中隊 工兵七一第三中隊 右ノ各一部
	大島 昭和十九年六月三日	工ニカ 昭和十九年六月三十日	大宮島 昭和十九年六月七日	大宮島 昭和十九年六月三十日

属表

部隊名

独立混成第四十九旅団

独立混成第二十旅団
~~(隊部六八五七)~~

編分

充當部

編成地
編成地
駐地

司令部
 独立歩三三一大隊
 備七五五四
 独立歩三二四大隊
 備七五五五
 独立歩三二五大隊
 備七五五六
 独立歩三二六大隊
 備七五五七
 独立歩三二七大隊
 備七五五八
 独立歩三二八大隊
 備七五五九
 独立歩三二九大隊
 備七五六〇
 独立歩三三〇大隊
 備七五六一
 砲兵隊
 備七五五二
 高射砲隊
 備七五五三
 工兵隊
 備七五五四

第四歩兵團司令部
 第二歩兵團司令部
 独立歩十二大隊
 歩兵第十聯隊第三大隊
 歩兵第六聯隊第一大隊
 第四旅遺隊、各大隊、各歩兵一中隊
 歩兵第二大隊
 歩兵第三聯隊、各歩兵隊
 歩兵第二四聯隊第三大隊
 歩兵第四六聯隊第三大隊
 歩兵第四八聯隊第三大隊
 野砲兵第二四聯隊第三大隊
 野戰高射砲隊、第五大隊
 第三中隊
 工兵第二四聯隊第三大隊
 独立混成第五聯隊本部
 南海中二中隊
 独立混成中五聯隊第三大隊
 同右
 野砲兵中隊
 通信班
 戰車中隊、六聯隊中二中隊及整備中隊

旅団本部
 第一大隊
 第二大隊
 第三大隊
 砲兵中隊
 通信隊
 戰車隊

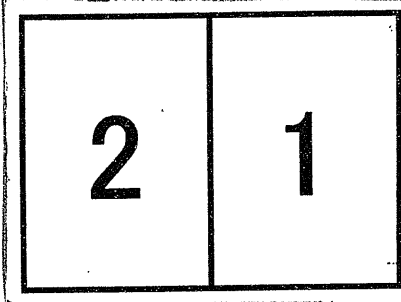
南島
 島
 島

昭和十九年六月七日
 南島

昭
 和
 十
 九
 年
 六
 月
 七
 日
 南
 島

十一、二十六

分割撮影ターゲット

分割した部分の撮影順序	
分割撮影した理由	A 3版以上のため
文書等名	第31軍編成(充当)部隊一覽表 (玉研部隊の部)
上記のとおり分割撮影したことを証明する。	

附錄附表第...
中...

十六二七

第三十一軍編成(元當)部隊一覽表(兵隊部)

部 隊 名 通稱號 地所 備考

第三軍司令部 滿七九二。

第三軍通信隊 備一七五〇。

師團司令部 備三二〇。

步兵第十八聯隊 三二一九。

步兵第三十八聯隊 三二二一。

步兵第五十聯隊 三二二五。

戰車隊 四三六四。

通信隊 三二九五。

輜重隊 三二〇三。

兵器勤務隊 三二七七。

經理勤務隊 三二九九。

野戰病院 三二〇五。

師團司令部 譽一八九三。

步兵第十八聯隊 一一九三三。

步兵第三十五聯隊 二九三三。

步兵第六十六聯隊 二九三五。

通信隊 二九三九。

輜重隊 一一九四〇。

兵器勤務隊 二九四一。

經理勤務部 二九四九。

野戰病院 二九四三。

旅團司令部 備一七五三八。

步兵第五聯隊 一七五三九。

步兵第六聯隊 一七五三〇。

步兵第七聯隊 一七五三一。

步兵第八聯隊 一七五三二。

步兵第九聯隊 一七五三三。

工兵隊 第一七五三四。

0894 0893

<p>一 櫻葉亭 櫻園 九十九 櫻葉亭 櫻園 九十九 櫻葉亭 櫻園 九十九</p>	<p>櫻葉亭 櫻園 九十九 櫻葉亭 櫻園 九十九 櫻葉亭 櫻園 九十九</p>	<p>櫻葉亭 櫻園 九十九 櫻葉亭 櫻園 九十九 櫻葉亭 櫻園 九十九</p>	<p>櫻葉亭 櫻園 九十九 櫻葉亭 櫻園 九十九 櫻葉亭 櫻園 九十九</p>	<p>櫻葉亭 櫻園 九十九 櫻葉亭 櫻園 九十九 櫻葉亭 櫻園 九十九</p>	<p>櫻葉亭 櫻園 九十九 櫻葉亭 櫻園 九十九 櫻葉亭 櫻園 九十九</p>	<p>櫻葉亭 櫻園 九十九 櫻葉亭 櫻園 九十九 櫻葉亭 櫻園 九十九</p>	<p>櫻葉亭 櫻園 九十九 櫻葉亭 櫻園 九十九 櫻葉亭 櫻園 九十九</p>
---	---	---	---	---	---	---	---

東京・國本ノ一ト納

キハチノ、故皇女ノ流遺セリ云々十四御名ノ外異流ニ録ス

南東及ニユ一カニヤ方面ノ、輸送途次滞留シアリタリ

部隊補給欠、資材等ノ、入ヲ止メ、於テ我カ兵士ノ、必要アリ

生シセテ、モリモリ、釋トシテ、地ニ撤戻、第五十三旅團ヨリ、特ニ、漢下

東洋・國本ノ一トナリ

六) 蒲州兵備 録

陸 十
一
一
二
二
二

222

0899

北東兵備

十八年未至北東配備

才ツキス力一補給路ヲ夫、アツキス力撤退後ニ於テハ北東作戦
路抑ヘトシテ千島列島全長一千里ノ延長ニ

千島第一守備隊(長將以下獨立歩兵六大隊、砲兵、工兵、防空、通信

隊各一箇、陸軍病院一)ヲ占守島及幌筵島ニ千島第三守備隊(混成

一隊)ヲ松輪島ニ

千島第三守備隊(混成ニ大隊基幹)ヲ擇抜島ニ配備シ北郡軍司令官ハ

札幌ニ位置シテ弘前師管區ヲ含ム以北ノ帝國防衛ヲ担任スル外津軽海峡

以北ノ

十三年

十ノ三

2

後

作戰任務ヲ付與セラレタリ當時北海道本島ハ第七師團カアツク及改直
 後動員セル儘原駐地ニ主カヲ置キテ防衛ニ任シ(留守第七師團ハ動員ニ非ス)
 之ニ若干特設守備隊、要塞部隊等ヲ配屬スハ協力セシムル外室蘭製鋼所
 防空爲十八年九月十八日室蘭防衛隊ヲ編成樺太ニ在リテハ昭和十八年七月
 動員セル樺太混成旅團(旅團司令部ニ砲隊、小砲隊、工兵隊其他)
 昭和十八年十一月新設セル第三守備隊ヲ以テ防衛ニ任シアリタリ

昭和十八年末、昭和十九年末、兵備強化(後章)

太平洋方面、戦況並ニアツキ、キスカ五砲後、北太平洋方面情勢ハ同方
 面ノ天候氣象ニ鑑ミ昭和十九年春季以降敵ノ反攻ヲ予期セサルヘカニ至リ

十島防備強化ハ切實緊急ノ処置トシテ昭和十八年末ヨリ左構想ノモトニ之ヲ擴充
 ニ着手セリ

0902

北東兵備構想 大綱 津輕海峡以北ヲ以テ作戰軍トナシク島列島ニ在リテ
ハ先ツ飛行場及海軍基地確保ノ見地ノ下其ノ防備ヲ再檢討シテ確信アル

兵備ヲ實施スルト共ニ北海道本島ノ兵備ヲ強化スルニ在リタリ

之カ實行配置ノ大要ハ全般兵備殊ニ太平洋方面兵備トノ關係ニ於テ當時ニ
於ケル國カト兵力運用 總力時ニ船舶量及ヒ補給能力ノ見地ヨリ左ノ如キ

兵力配置トナスコトニ決シ兵團ノ展開ヲ十九年春ヨリ着手セリ

而シテ各兵團ハ各島ノ大小地形港灣飛行場適切ノ状況ヲ勘案シ各獨立
防衛ニ適スル如ク且補給能力ニ鑑ミ馬匹自動車ヲ著減シ火器ヲ増加セル編制ト

セリ

大正四日第一師團ヲ松輪島、新知島、得撫島ニ轉開現地到着後改編

千島第二守備隊ヲ併セ諸兵連合ノ歩兵三聯隊工兵通信輜重等
撥輸新知傳標

昭和十九年四月八月滿洲ヨリ第五十七歩兵團司令部独立守備歩兵三大隊基
幹ヲ千島第一集團トシテ北千島ニ轉用ス

四月十二日千島第一守備隊及右ノ歩一大ヲ基幹トシテ占守及幌筵島ニ
二旅團(☆)独立歩四大基幹(一)砲工通信輜重ノ第九十一師團ヲ新設ス

四月十二日北海道ヨリ補充ヲ編成投入シテ千島第三守備隊ヲ基幹ト
シテ擇抜島ニ混編第四十三旅團(☆)独立歩四大基幹(一)ヲ新設ス

北海道守島ニ在リテハ第七師團ヲ東部北海道ニ推進シテ防衛ノ強化ヲ

十一ノ三十三

0905

十一ノ三十五

凶ルト共ニ留守第七師団ヲ動員シテ西部北海道ノ防衛ニ任スルコトセリ
又東部北海道ニ位置ヲ予定セル海上機動第四旅団ハ運用上ノ見地ヨ
リ擇投島軍冠務ニ推進セリ

由權太ニ於テハ蘇俄ニ対シ無益ノ刺撥ヲ與ヘサル理由未コノ間特ニ戰備ヲ強
化ハ之ヲ行ハス

七
叙上ノ兵備ニ伴ヒ統帥機構ヲ強化スル為昭和十九年二月十八日擇投島
ニ第一三七軍司令部札幌ニ第五方面軍司令部ヲ編成シテ津軽海峡以北ハ
作戰ヲ担任セシムルト共ニ北部軍司令部官職推ヲ継承セシメ且弘前師管
区ハ之ヲ東部軍ノ管轄地域ニ撥入セリ

八
然レトモ伏勢ヲ推移ハ急調ニシテ予定兵備ニ一部ノ補強ノ必要ヲ

ヲ認ムルニ至リ滿洲ヨリ地方^{本上}面ニ轉用予定中ニテ大隊基幹ヲ國後島ニ
投入シテ昭和十九年四月独混第^ス九聯隊ヲ新設又十九年七月北海道本島
ニ於ケル重要港湾等ノ直接防備兵ヲ強化ス次テサイパン^スリ失陥ト
共ニ本土兵備強化ノ一環トシテ留守第^ス七師団ヲ基幹トシテ第^ス七十七師団
ヲ動員シ道西地区ノ防衛ヲ強化ス

十三五
6

本土兵備

（九）
日本土諸兵團の大本營或略多南及補給動員業務ヲ任務

上昭和八年末一旅師團七箇（70 47D 42D 52D 43D 53D 46D）
備有

師七箇（47D 451D 1492D 144D 1454D 1455D 1456D）
ナリ也 53D 46D 八年

42D 白月七日 43D 八訪員 及 二日 師 中部太平洋方面 派遣
昭和十九年二月十日

二律七 昭和十九年三月 於本州 在 47D 師 備有

備有 師 備有

十二

十二
年
軍

2
↑
新井、世襲、~~北~~太平洋方面ノ我役ハ本主ノ急遽ノ號化

ヲ必直トシ三月末 1492D 144D ~~140D~~ 137D 125D 1256D
ヲ取ルニ一般即

舞仰園、物等ノ喜更 (93D 44D ~~40D~~ 81D 86D) シ教育洲研

ニ奉念セシム 越テ五月内各地各 (軍) 勤 欠 坏
(集部、中印、西印)

六月中旬太平洋ノ要衝名ニヤシクシ地区ニ新主ノ敵ノ反攻

津シ之ノ反素ノ世仰 (不) 事 (在) 下 本土兵團ノ
軍 部 4

現役、鑑々、滿州ノ於テ公主嶺嶺号板ヲ甚難トシテ第次

(納光國田派)

十一三

後日之勅令、第四七師團一部(歩兵三六、砲兵五、車庫兵)

一、警備隊、第九師團、機動隊、左衛門尉計五師團、

犯立連計犯中約十五箇、警備隊計三箇(26K 27K) 野戦司令部

第一師團、由地蔵寺勅令計五箇、一、犯立連計犯大隊五箇

(8.9.10.11.12) 機動隊大隊三箇、野戦司令部、各一大、

假令等急連、井南心之方升進、中止せり此等

部隊、比島及小笠原方面、機動隊、三六、各一

十二の四

軍

斯ヲサレシメテ、地区、失陥、及、同方面、於、是、帝國海軍、大志

ヲ、概、シ、テ、大、平、洋、戰、局、一、概、ヲ、劃、ス、ル、ニ、至、リ、敵、海、上、勢、力

ハ、我、力、本、土、週、邊、ニ、對、シ、テ、行、動、ノ、自、由、ヲ、得、我、力、本、土、ニ、隨、時

敵、ノ、攻、撃、ヲ、多、ク、却、セ、尤、ハ、カ、ラ、サ、ル、ニ、至、リ、大、本、營、ハ、本、年、後、半

期、米、軍、主、力、ノ、進、攻、ニ、對、シ、テ、快、戦、ヲ、指、導、シ、其、ノ、企、圖、ヲ、悉、極

ス、(ク、方、針、)ノ、要、要、ニ、國、軍、ノ、快、戦、方、面、ヲ、本、土、台、灣

南、洋、諸、島、國、域、及、比、島、方、面、ニ、遷、定、ス

(神皇正統記)

(主上)

之方、六月、伊豆諸島強化、及袖之嶽成程隊五箇

(145618) 但今、仲紀入、袖之嶽成程隊五箇等次

八戸軍地方、防衛、乃、第四十七師團、及之、圖形、之、為、守

第五十七師團、之、勅、又、越、七月、内、地、留、守、師團、之、老、將、ト

之、一、般、師團、九、箇、(34D 32D 73D 77D 84D 86D 44D 81D 93D) 并、奉、陸、軍

幾年、陸、軍、將、士、等、候、四、年、陸、軍、將、士、候、海、守、隊、隊、之、老、將

ト、陸、軍、將、士、四、師、團、並、之、要、一、軍、連、部、隊、之、始、成、ス

(和光田田)

十一ノ六

010 93D

而之喜兵國中 反素 幾力ノ中核タラズニ及 諸制ノ圍ニ

指ニ考應ニノ外人の印國強紀及 別者ニ在リ、京祀等松

ノ印人及リ 指者ニ在リ、京祀等松ノ 靜部ノ 是釋

尚右及素兵國及 殊事開 統率及 勢ニ 第三ノ上ノ軍ヲ

七日喜

没ノ大率各直轄ト云

柳ノ 兵南建設者ノ人 的國力ヲ核計ノ上 作務上ノ要求

材如案ニ 之力想極ノ 快之ニ 當ルニ 千七 近治吾節

(結業光國田照)

十三人

此如多規之^り事し之方及故者、大部ハ短切用ノ補也

兵ノ國信上ノ部隊ノ我力ハ相度ニ依^下テ又出^正ニ所成地出^者

迄全般ニ割^ハ一^割ノ^数ヲ^般ノ^長取^局存^投ニ^三枚ニ

一名程度ニスルノ已^キ事^ハ、^状況^ニア^リテ^リ

(録文元國田紙)

239

0918

十二ノ

又内地之修ケル築城ノ急遽完成ノ為陸軍園東軍在リテ

内地之修ケル

園東軍築城ニ任セリシ園東軍築城隊ヲ防衛築城隊ト改稱シテ

防衛編制ノ令官ニ轉居セテ築城施設ニ関スル事務ヲ行ハシム

七月末陸軍移隊四箇(北 18TK 19TK 22TK) 砲兵野軍大隊三箇

通信移隊二箇及其他若干ノ通信中隊ヲ助メ九月移ケハ

砲兵連去大隊十箇ヲ助メ九月内地兵カク遠征先向シ来ルニ

十月比島ノ修ケル築城ニ関シテ 園東軍ノ全カク之ニ

(原典光復所蔵)

